

よんせい

第 27 号



宮城県・斎藤喜久治農園でのリンゴ狩り



山形県・留場佐和農園でのサクランボ狩り

鯉淵一期会

ようせい

27号 もくじ

切散八俣遠呂智 負袋為従者率往	1
リンゴ狩りとサクランボ狩り / 伊藤 明	2
ようこそサクランボ王国へ / 留場 佐和	4
結成大会発起人に感謝 / 稲上 知	7
老いの日々 二〇二一年十月	9
／ 栗山 要	
多病息災で生きる / 水戸部幸一	20
誇り高き人生に / 筒井 泰夫	22
書の道に励む / 比本 竹一	23
健康に良いヤーコン芋 / 高田 利通	24
営農集団組合を引っ張る / 田宮 淳義	26
そろそろ限界 / 菊田 広司	27
伊藤明会長 食品産業功労賞を受賞 (日本食糧新聞より)	28
鯉淵一期会庶務報告 / 事務局 (平成22年7月～23年11月)	30
鯉淵一期会会計報告 / 事務局 (平成22年7月～23年11月)	32
あとがき / 栗山 要	33
会 員 名 簿 / 事務局	34

切散八俣遠呂智 負袋為従者率往

きりはなつやまたのおろち ふくろをせおいともびととなりていきき

その昔、宇宙という不可思議な存在に気付いたわれわれの祖先は、これを〈天地〉と観じ、①天を高天原という神（精神）の世界、②地を黄泉の国という死（物質）の世界、③その中間に存在する世界を現し世（葦原中国）と名付けて、遙かなる歴史を刻んで来ました。

（阿部 國治）



山形県留場農園でのサクランボ狩り記念

リンゴ狩りとサクランボ狩り

会長・東京都 伊藤 明

『東日本大震災』から半年が経過しようとし、改めて被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

私どもの工場も茨城県に集中していますので、かなりの損害を蒙りました。

しかし、同業者のお蔭で一週間後には復旧しましたが、北関東三県と災害時非常食糧の供給工場として指定工場になっておりますので、だいぶ苦勞をいたしました。

つい先日にも台風十二号で紀伊半島各地に洪水の被害を与え、さらに台風十五号が日本列島を縦断して、再度、大被害を蒙りました。

このように、今年は自然災害の

多さに何か不気味な想いをさせられております。

※

さて、鯉淵一期会のこと、関東大会は年に二回集まろうということとできてきましたが、その折に「たまには少し遠方へ行こうではないか」ということで、たまたま宮城県の齋藤喜久治君がその場に居合わせたので

「リンゴ狩りかどうか」と、話を持ちかけました。実は、齋藤君の家は、先年火事で全焼しましたが、その後、新築していたので

「喜んで引き受けます」ということで、その場で決定しました。



宮城県齋藤農園でのリンゴ狩り記念

「喜んで引き受けます」ということで、その場で決定しました。当日は、われわれがリンゴ狩りしやすいリンゴ園を残していられたので、大いにリンゴ狩りを楽しむことができました。

再建された齋藤君の家は、崖の上方にあつて、広くて大変立派な家で、お土産に美味しいリンゴを

一箱ずつ戴いて帰りました

※

そして、リンゴ狩り後の宴会の席で、次回の相談をしたところ

「サクランボ狩りはどうだろうか」

という提案があつて、山形県か

ら参加していた留場佐和さんから

「皆さんが喜んで来て下さるなら、

私のところでお引き受けします」

と快諾いただき、来年の七月上



斎藤農園でのリンゴ狩り記念

旬と決定しました。

※



留場農園でのサクランボ狩り

こうして開催された『サクランボ狩り』でしたが、写真でもご覧の通りへフルーツの王様と言われるサクランボが鈴なりになっていて「食べるのは自由、お土産用にも取って下さい」

と言われて、私たちは腹いっぱい食べて、お土産用にもたくさん戴きました。

この催しに遠路、ご参加いただいた福井県の藤井君、愛媛県の大西君、本当に有難うございました。

この場をお借りして、留場佐和さんご一家の皆さまに、心からお礼申し上げます。

※

指導員養成所を卒業して六十余年、われわれも後期高齢者の仲間入りを果たしましたが、関西では、檀上泰則、別府信空、早田仁という三人の人気者が亡くなり大変淋しくなりましたが、今後は医者と適当に仲良くしながら、第一目標の九十歳を目指して頑張りましょう。



山形県留場農園訪問の折の数葉

ようこそサクランボ王国へ

山形県 留場 佐和

することはできませんでした。

また、山形は北日本ですが、日本百名山に選ばれている、蔵王、月山、鳥海、朝日、飯豊、西吾妻の山々があつて、その麓は至る所でお湯が湧き出る温泉王国であります。

さらに、初夏の味覚のサクランボ、桃、ブドウ、ラフランス、リンゴ等々の果樹王国であり、お米のつや姫も有名です。

あるいは、『奥の細道』紀行で有名な芭蕉は、山形の各地を宿として選び、一番多くの俳句を残しており、文化遺産として有名です。

※ さて、今度私たちが企画した鯉淵一期会の『奥の細道巡りとサクランボ狩り』の七月四日は、幸い天候にも恵まれ、全国各地から二十二名の参加を得て開催しました。当初

慈覚大師が山寺を開山したのが貞観二年（八六〇年）であり、貞観地震は八六九年（平安時代）であつて、その時の地震と今年

『東日本大震災』は被害の大きさが似ていると、山形新聞に出ていました。

私は今回の大地震が、千数百年以来の大地震だったとはじめて知つて、びっくりしました。

※ 昨年、鯉淵一期会関東大会が宮城県で開かれた折、私も誘われて参加しましたが、仙台の小原温泉で

「今回は、山形の留場佐和さんの

ところでサクランボ狩りを楽しませてもらいたいのだが、引き受けてくれますか」

と依頼され、へ今は亡き主人がいろいろお世話になつたご恩もあるし〜と思つて快く引き受けました。

※ 皆さん、ご存じのように、山形は紅花の産地として知られ、一昔

前には北前船で京の都に運び、最上の紅花として珍重されていたもので、お出でいただく一期会の皆さんにお見せしようと、紅花の種類を揃えておりましたが、生憎、一期会の当日は咲かずに、お見せ

「八十歳も半ばの年齢で、果たしてうまく進行できるだろうか」

と心配でしたが、奥様や娘さんが同伴下さっていて心配はありませんでした。

名古屋の山田茂さんは車椅子を使っというので、それと一緒にはサクラランポ園まで歩かれたのは吃驚しました。

和歌山の早田仁さんは、六月に「親子四人で参加します」

と元気な声で返事を貰っていましたが、間もなく入院されて、六月二十四日にあの世に旅立たれたとの知らせを受け取り吃驚いたしました。

若い頃、柔道で鍛えた頑丈な身体を持ち主だったみたいで、一期会の大会には何時も三人の家族に介抱されながら参加され、一期会への情熱は人並み以上でした。ご冥福を心からお祈り申し上げます。

※

ところで、鯉淵一期会の大会と言えば、総会の後、観光するのが慣例になっていましたが、今回は

「なるべく歩かないほうが良い」といので、それを念頭に計画しました。

七月六日、我が家でのサクラランポ狩りの日は、好天に恵まれ、近隣の親類の人や、横浜から主人の妹が友人と三人連れで手伝いに来てくれたりして、大助かりでした。

※

さて、日本にサクラランポが渡来したのは明治元年、山形県には明治九年に入りました。

当初、全国各地で試作されましたが、みんな霜害や台風等々の被害を受けて失



鯉淵一期会を招待下さった留場佐和さん

敗、山形県だけが、これを乗り越えて着実に実績を上げました。その後、山形県では官民一体となつての努力が実つて、全国生産量の七割を占める《サクラランポ王国》となり、七十万人を超える観光客が訪れるなど、地域への経

済効果が高い作物となっており
ます。

※

近年、特に評判の高い品種『佐

藤錦』の生みの親は、東根市の篤

農家・佐藤栄助氏です。

大正元年から十六年の永い研究

の末に出来た最高品種で、佐藤氏
の名前を取り『佐藤錦』と名付け
られました。

※

しかし、このサクランボの栽培

は《博打》とも言われるほど大変

でした。

なぜなら、熟れたサクラ

ンボは、いったん雨が降れ

ば、直ぐに実が割れて腐る

ので、その雨よけハウスが

欠かせません。

幸い、三十年くらい前に

ビニールハウスが実用化し

て、これが良かったと思っ

ます。

また、従前は加工を主と

していましたが、だんだん

需要が減って、この先どう

なるかと心配していました

が、宅配便が整ったお蔭で、

販路がどんどん広がってき

ました。



留場農園でのサクランボ狩り風景

要するに、災難や困った問題が
生じた折には、それに屈せず立ち
向かい、克服していくことが大事
だと思えます。

今回発生した大震災と津波の被
害、あるいは、原子力発電所の放
射能漏れという大災害も、みんな
の知恵を絞って、克服していこう
ではありませんか。

今回の大会も「案ずるより産む
がやすし」で成功させていただき
ました。



結成大会発起人に感謝

京都府 稲上 知

三月十一日、東日本大地震・大津波・福島原発事故等々で被災された東北・関東地方の皆さん、並びに、九月三日の台風十二号、九月十九日の台風十五号の記録的豪雨で水禍に遭われた皆さん方に、改めてお見舞いを申し上げ、これから寒さに向かう折、ご自愛のほど祈念いたします。

※

さて、鯉淵一期会全国大会は、平成二十年の第十七回神戸大会をもつて幕引きとなり、これからは各地方ごとに開催することになり、懐かしさがひとしお湧いてくる想いがします。

そのような観点から振り返ってみると、昭和五十年に一期会結成大会の発起人としてお世話いただいた面々、梶並清一、松村修司、宮本浩三、菊田廣司、沼崎亨、中里栄の皆さん、並びに、故人となられた東胤正、岩田信吾、湯沢隆夫、宮本清次、細川貫一、中野正の皆さん方のお骨折りのお蔭で、

今日まで強い絆で結ばれ、交流を深めてこられたことを感謝し、お礼申し上げます。

とりわけ、会長を始め、本部役員を務めていただいた皆さんには、永年にわたって行き届いた配慮をいただき、有難うございました。

さらに、十七回にも及ぶ各地域での大会を開催して戴き、それぞれに世話役の地元皆さんの企画で、見聞を広めることができました。

数々の想いが蘇ってくるにつけ、平成十七年の『みちのく大会』では、好天に恵まれ、展望の開けた松島の島巡りは、山家育ちの者にとつて、素晴らしい海の景観に満喫しましたが、このたびの東日本大地震や大津波で、たいへんな災害だったとか。

その後の復旧・復興の見通しは、テレビ、新聞等の報道だけで推察の域を出ませんが、たいへん気掛かりです。

※

ここで、各地で開催されてきた全国大会のうち関西で取り組んできた大会を振り返ってみます。

まず、平成二年の第八回南紀大会。

この大会では、南紀の海岸巡り

と、高野山紀州連峰巡りの二つに分かれてのコースでしたが、ここは今年、台風十二号と台風十五号で甚大な被害を受けた地域であつて、また、世界遺産としても速やかな復旧が求められるところでもあります。

※

次に、平成六年に開催した第十回京都大会は、地元の私を中心として、神戸の栗山君の知恵も借りて進めてまいりました。

特に、顧問の先生方が五人顔をそろえていただき、参加会員も五十一人の盛況で、宿も京都と言ふ名の古都らしくて、明治の元勳・木戸孝允（桂小五郎）の旧邸跡に建てられた旅館でした。

翌日は観光。比叡山延暦寺根本中堂では二十七年ぶりの開扉に巡り合い、その後、琵琶湖畔の浮御堂、大原三千院などを巡りました。

※

平成二十年開催の第十七回神戸大会は、鯉淵一期会最後の全国大会となりました。

参加会員二十九人、同伴家族十九人、併せて四十八人。

会場は著名な温泉地の有馬グラウンドホテル。二日目は神戸市内の異人館巡り。その後淡路島に渡り、神戸・淡路大震災の折に出来た野島断層などを見て回りました。

※

蛇足ながら、予てから鯉淵一期会として自慢できるものの一つに会誌『ようせい』があると思っています。

これは、栗山要君が仕事の合間に編集いただくようになってから、流石、その道のエキスパートだけに、毎号、素人には真似の出来ないセンスの良さが溢れていました。（現在二十七号。これに加えて、以前は、合間に臨時増刊号を出し

ていた）

かつて、鯉淵学園京都支部の集まりで、見本代わりに取り出して「神戸在住の同窓生、栗山君という人に編集を担当願っており、皆さんも参考にしたらどうですか」と、お話ししたことがあります。



老いの日々 — 二〇二一年十月 —

兵庫県 栗山 要

◆四年前、日本講演会主筆を退いた折、毎朝五キロを歩くことと、日記の記帳を義務付けた。以下はその一ヶ月分。

十月一日（土曜日、晴）

今年も早や十月、走馬燈のように回転する日々の速さを実感しながら、今朝は東町回りのコースを歩く。

昨日の夜、埼玉県浦和市の山崎和歌子さんから『袋背負いの心』二冊の電話注文が寄せられ、直ぐに送本の用意を整えたが、考えてみれば土曜・日曜は郵便局が休業

で、山崎さんには大変申し訳ないが、三日の月曜日まで待つてもらうことにする。

さて、『老いの日々』十月分、朝食後一番にサンプルをプリント、例により妻の恵さんに校正を頼み、午後、必要部数をプリントアウトして、ご愛読者(?)の皆さんにお送りする用意を整えたが、これもお送りするのは、明後日の十月三日ということになる。

もちろん、クロネコヤマトのメール便を使う手はあるが、配達が遅過ぎて、やっぱり、専門の郵便局のほうが良い。

十月二日（日曜日、曇）

昨夜は就寝が遅くなって、今朝の起床は辛かったが、何とか午前五時から西町回りのコースを歩くことができた。

さて、予てから催促されながら諦めていた詩誌『メランジユ』への出稿。

「退職後の老いの日々には、こんな生き方もある」

ということを提示する意味で、九月分の『老いの日々』を出すことに決め、娘の知子の手助けを得て、編集者の寺岡良信さん宛にメール便で送稿する。

その後、パソコンの使い方について、知子から様々なテクニクを教わったが、高齢者特有の短気のせいか、記憶力が衰退したせいか、なかなか覚えられなくて文句の言いたい放題。しかし、そこは親子の情に免じて許してもらう。

十月三日（月曜日、晴）

今朝は午前五時から北町↓東町回りのコースを歩く。スタイルはそれぞれに異なるが、僕と同じように歩く人はいて、道すがら記憶ある人とすれ違った折は

「あの人、今日も元気なのだ」

と、ホッとする。

朝食後、九時になるのを待ちかねて、発送の準備を整えていた山崎和歌子さん宛の『袋背負いの心』二冊と、ご愛読者七人宛に『老いの日々』を、西神南センタービル内の郵便局からお送りする。

今日は午後六時半からノーベル賞・医学生理学賞の発表が行われ、その筋の情報によると

「京都大学教授の山中博士の受賞が確実」

と言うことで、テレビなど前評判が高かったが、極めて残念ながら、そうはならなかった。

「果報は寝て待て」

という箴言もあるが、推測する

のに、山中教授のノーベル賞受賞を騒いだのはマスコミだけで、ご本人は案外、冷静だったのかも知れない。

十月四日（火曜日、晴）

ちよつと肌寒い感じの朝、煌めく星空に眼をやりながら、午前五時から西町回りのコースを歩く。

今月は十五日の土曜日に、午後三時から元町の『パレス神戸』で、引き続き午後六時から捧誠会大阪壮年部の勉強会で、それぞれ一時間講演することになっていて、どんな内容の話をするか、いろいろ思案する。

一応、神戸での題名は《袋背負いの心について》、大阪での題名は《則天去私という生き方》にしているが、問題はその内容で、話したいことはいっぱいあるが、なかなか絞り切れない。

考えあぐねて、気紛れにパソコン囲碁の対局をしたが、やっぱり落ち着かなくて、当然、成績は芳しくない。

「二兎を追う者、一兎を得ず」

という諺の通りである。

十月五日（水曜日、曇、のち雨）

午前五時ちょうど、未だ夜の帳が辺りを覆っている時刻に、東町回りのコースを歩く。

妻の恵さんは

「暗闇の時刻は危ないから、少し遅らせたらどう？」

と気遣ってくれるが、体験的には雑念を追いつかすためには、この時間帯に歩くほうがいい。

午後、知子からメールが入って、郵便振替入金の詳細を知ることができ、事務上非常に助かった。いま僕が利用している振替貯金の名義人が「井上知子」になっているため、郵便局からの振替貯金通知

票が京都の井上知子宛に郵送されるための非常措置である。

今日の僕の仕事は、コープへ行つての食料品の購入。余暇は専らパソコン囲碁の対局。

勝敗は相半ばの成績だったが「大人が昼間からこんなことをしていて良いのか」

という精神的な迷い故か、折々の着手に乱れが生じる。

十月六日（木曜日、朝小雨、のち晴）

小雨模様の中、携帯傘を手に、西町回りのコースを歩く。

午後は一転して好天気。今年は各地域で地震や豪雨が多発している異常気象の日本列島だが、このように好天だとホッと一息つく感じ。

今日は、森田さんから十五日に予定されている捧誠会大阪支部壮年部の勉強会について、京都の知子から郵便貯金の振替入金のお知らせ

について、それぞれメールを受信。いつも周りの人たちに、気を使ってもらい、大事にしてもらって、こんなに嬉しいことはない。

十月七日（金曜日、曇）

今朝は午前四時五十分から、東町回りのコースを、一歩ずつ踏みしめて歩きながら、そのリズムに合わせて、銀河系宇宙という不思議な存在、その中での根源的な神の働き、そして、人間という名の生命の働き等々、いろんなことを考える。

午後、おがわ・えりさんから『老いの日々』九月分受け取りのメールをいただく。喜んで読んでもらい嬉しかったし、ホームページ設定の話もあつて、たいへん楽しい便り。

海竜社から出ている中野幸次の『本物の生き方』、十年ほど前に読んだが、改めて読み直す。共感す

るところは多いが、十年もの歳月を経ると、読後感も異なる。

この人には『清貧の思想』なる著作もあつて、良く言えばへ不退换の思想、世間的に言えばへ頑固さ、みたいなものが横溢していて、一九二五年生まれの僕なんかは大好きだが、昨今の若者たちには受け入れられ難いのではないか。

十月八日（土曜日、晴）

夜明け前の午前五時から西町回りのコースを歩く。気温は歩くにちようど良くて、爽快感さえ覚える。

今日は来る十月十五日の捧誠会大阪支部壮年部の勉強会に備えてレジュメを作成、一時間の持ち時間だが、気に入ってもらえる話が出来るかどうかが、ちよつと心配。

午後、東京都新宿区の小川友美恵さんから『袋背負いの心』の電

話注文を受け、直ちに荷作りして、クロネコヤマトのメール便で送本。

さて、同窓会誌『ようせい』のこと。

そろそろ次号の編集に取り掛かる季節だが、いま原稿が届いているのは四〜五人だけで、これでは同窓会誌としての体裁が整え難く、編集作業に取り掛かる気にならない。

十月九日（日曜日、晴）

今朝は東町回りのコースを歩いたが、街中は静寂そのもので、気味が悪いくらい。

さて、今日は日曜日とあって、パソコン囲碁のコーナーは早くから愛好者で大賑わい。僕もその一人として参加し、皆さんとの対局を楽しみ、好成績で悦に入っていた。

ところが、一人の大インチキ野郎、ペンネームは『ムーミンパパ』

と言うのだが、こんな相手に当たって、不愉快なこと極まりなかった。

なにせ、終局後の計算の折、生きている僕の白石を取り上げて、自分の碁笥に入れてしまうのだから、てんで話にならない。顔が見えないからこんな阿呆なことをするのだろうか、囲碁の愛好者から言わせてもらえば、囲碁コーナーから即刻、永久追放すべき苦々しい存在である。

僕の囲碁ノートには

「ムーミンパパの大インチキ野郎！」
という、読むにも恥ずかしい激怒の添え書きが残っている。

十月十日（月曜日、体育の日、晴）

午前五時から西町回りのコースを歩く。朝が早いせいとか、途中で出会った散歩者は二人だけ。
さて、十五日のパレス神戸と捧

誠会大阪支部での僕の講演。神戸での演題は『袋背負いの心』、大

阪での演題は『則天去私という生き方』だが、よりよい内容、皆さんに感銘を与える内容にするため、すでに用意したレジュメを再検討する。

ところで、昨日のパソコン囲碁での僕の激怒。一日隔てた今日は怒りが反省に変わって

「これも、神さまが僕に与えられた人生勉強である」

と思い、一度は絶縁を考えたパソコン囲碁だったが、やっぱり、続けることにした。

つまり、僕自身が、勝敗の帰趨はもちろん、対局相手の手段如何に関しても冷静に受け止めることに意を決したわけで、また明日からが楽しみである。

十月十一日（火曜日、晴、ときどき曇り）

今朝は東町↓北町回りのコースを歩く。二十〜三十メートル前を

歩く男女二人連れに遅れを取るま
いと、かなりの速足で歩いたため
に、今の季節では珍しく汗が肌に
滲む。

これは「負けん気」というのか
「闘争心」というのか、いずれに
しても、この歳になって、僕には
そんな無邪気な一面が残っている
のだろう。

今日の日中は多くの時間をパソ
コン囲碁の対局に使う。一昨日の
トラブルもあって、平常心を心掛
けたが、その残滓みたいなものは
あって、うっかりミスを多発、当
然、成績は芳しくなかったけれど、
夕刻になって漸く平常心が戻り、
当然のように勝率は急上昇した。



十月十二日（水曜日、晴）

今朝は西町回りのコースを歩い
たが、西空に輝く満月を眺めて、
ロマンチックな心が湧きあがった
のか、子どもの頃に満蒙開拓青少
年義勇軍に参加、黒竜江省ノンジャ
ンの荒野で歌った義勇軍讃歌『わ
れらは若き義勇軍』の行進曲が蘇
り、繰り返し頭の中で歌っていた。
昔「幼児がえり」という言葉を
聞いたが、この歳になって、それ
に似た現象「子どもがえり」が
起こったのだろうか。とにかく、
人間というのは不思議な存在で
ある。

さて、コープでの食料品の買い
入れは、いつもは僕の受け持ちに
なっているが、今日はお米の購入
もあって、一人では持ち帰りが大
変と、久し振りに恵さんと二人で
出掛ける。

仕事らしい働きはそれだけで、
後は「毎日が日曜日」の身分で、

多くの時間をパソコン囲碁の対局
で消費する。

十月十三日（木曜日、晴）

午前五時、夜明け前の舗道を東
町回りで歩く。コースの半ばを過
ぎた頃、急に脛の辺りを痛みが走
り、しゃがんでマッサージする。
いつも行っている出発前の準備体
操が足りなかったのかも知れない。

今日は平々凡々の一日。

書斎の椅子に座り、書架を見ま
わしたが、僕の蔵書の大半は仕事
から退いた四年前に、特に大事な
もの以外は全て売却して、いま並
べてあるのは知子の詩集関連の蔵
書が殆んど。

従って、折々に手にとって読み
返す本は限られていて、よく「老
後」とか「高齢者」という言葉
が使われるが、八十年を超えた
僕の人生を凝縮した態を為して
いる。

十月十四日（曇、のち雨）

午前五時、早朝散歩の出発直前、中天を分厚く覆った雲の隙間から、明るい満月がちよっと顔を見せたが、直ぐに雲に覆われてしまった。そんな今朝は西町回りのコースを歩いたが、歩く人の姿はチラホラで、帰り着く直前、小雨が降り出す。

今日の《新釈古事記伝》は、東京都新宿区の小川友美恵さんから先にお送りした第一集『袋背負いの心』に引き続き、第二集〜第七集の電話注文が入り、直ちに荷造りして、西神南センター内郵便局からお送りする。

十月十五日（土曜日、曇、ときどき雨）

今朝は五時ちよどから東町回りのコースを歩いたが、辺りが静寂で覆われているせいか、足音だけがやけに高く響く。夜明け前の

暗闇の中を、一人黙々と歩く。

さて、今日は講演が二件。

一つは、神戸・元町の『神戸パレス』で、午後三時からの《鯉淵学園同窓会近畿の集い》で約四十人を前に『老いの日々』と題して一時間の講演。

集まったのは二十代〜八十代まで様々な年齢層で、参加者の一人から

「たいへん感銘を受けました」

との褒め言葉で挨拶されたが、話の受取りようは千差万別だったに違いない。

もう一つは、捧誠会大阪支部壮年部での勉強会で『則天去私という生き方』と題して、これを書籍の題名とした三沢直子さんの体験を紹介しながらの約一時間の講演。

お話をした後の雰囲気から推測して好評だったみたい。ただし、帰宅したのは午後十一時前、老いますますます盛んな僕も、かなりの

疲労感を覚える。

十月十六日（日曜日、晴）

昨日の疲労感が残っていて、かなりきつかったが、めげずに午前五時から西町回りのコースを歩く。早朝散歩から帰家してメールを開くと、東京都世田谷区の橋本英明さんから、次の方々に《新釈古事記伝》を送るよう注文が入っていた。

*

横浜市港北区 奥田知明様

第一集〜第七集

船橋市二宮 高橋一泰様

第一集〜第七集

川崎市麻生区 三沢卓也様

第一集〜第七集

（コメント）私の周囲で《新釈古事記伝》が好評を博しています。特段にこちらから宣伝しているわけでもないのに、自然発生的に友人間にこの本の評判が回っている

のです。

*

なお、お昼過ぎに、新潟市の長谷祐子さんから『袋背負いの心』の電話注文が入る。

十月十七日（月曜日、晴）

今朝は、午前五時ちようどから東町回りのコースを歩く。この早朝散歩は、毎回、同じことの繰り返しのようなのだが（日々是新）で、いろんな発見や出来事の連続である。

午前九時、月曜日とすること、平日に戻って郵便局の窓口が開くので、土曜日と日曜日に受注していた《新釈古事記伝》の五個口の小包を持ち込み郵送する。

何時も思うことだが、鯉淵一期会の機関誌『ようせい』の原稿作成、その他、急がなければならぬ仕事如山積しているが、なかなかその気になれなくて、気力が充

実してくるのを心待ちしているのが現実である。

十月十八日（火曜日、晴）

今朝は夜明け前の天空に、半月や数多の星の煌めきを仰ぎ見ながら、子どもの頃に出会った故郷の天空を思い出し、そこはかたなく昔の想い出に浸り歩く。

朝食後、暫くして、先に『袋背負いの心』を買っていただいた東京都目黒区の植田貞子さんから電話が入って

「先日お送りいただいた《新釈古事記伝》第一集の『袋背負いの心』内容がたいへん素晴らしくて、続く第二集、第七集も読みたいのでお送り下さい」

ということだったので、直ぐに荷造りをして郵送する。このように読者に評価されるのは、編纂者冥利に尽きると言っている。

十月十九日（水曜日、晴）

午前五時から、東町↓北町のコースを歩く。気象予報の通り今日も好天の一日となる。

今日はちようど帰家中の知子にパソコンの操作テクニクをいろいろと教わったが、その折には理解できても、歳のせいかなかなか記憶として残らなくて歯がゆい思いをする。

「秋の日はつるべ落とし」という諺があるが、今日もあつというまに暮れてしまった。

この伝に従えば「老年期の日々はつるべ落とし」ということかも知れない。

それだけに、与えられた持ち時間をも有意義に使わなければならないのだが、事志に反して、なかなかそうはいかない。

十月二十日（木曜日、晴）

夜明け前の煌めく星群の一つ一

つに目を移し、西町回りのコースを歩きながら、今日一日の平安無事を祈る。

今日は長男の泰史が、ポートアイランドの神戸学院大学での学会に出席するために神戸へやってくるので、食材購入のために恵さんとコープへ出掛ける。

コープから帰った直後、横浜市西区の苫米地由美さんから『新釈古事記伝』第一集『袋背負いの心』の電話注文があつて、これは明日一番の郵便でお送りすることにする。

午後六時過ぎに、予定通り息子の泰史がやってきて、四方山話に花を咲かせながら夕餉の席に着き。親子三人の健康を祝して乾杯。久し振りに楽しいひとときを過ごす。

不思議なことに、この歳になると、誰であつても、来客があると子どもの頃のように嬉しくて仕方

がない。

十月二十一日（金曜日、晴のち曇り）

今朝は帰家中の泰史が同伴、久し振りに永井谷町回りのコースを歩く。ちよつと短いコースだが、普段より早く歩いたせいかな、かなり疲れる。

今日はこれといった仕事はなく、多くの時間を、例によって、パソコン囲碁の対局に消費する。気分的に落ち着いていたせいだろう。成績は意外によく九勝一敗、ほぼ完璧に近い着手に終始できたが、昨今、こんな日は珍しい。

ただ、へもう少し、有意義な過ごし方はないのか〜という想いはあつて、忸怩たるものを覚える。

十月二十二日（土曜日、雨）

早朝散歩に備えて、午前四時半

に起きたが、雨天のために中止して、資源ごみの搬出作業だけを行う。

帰省中の泰史は午前八時過ぎ、ポートアイランドの神戸学院大学で開催される会議に出席するため出発。

午後、おがわ・えりさんからメールが入り

「先に『新釈古事記伝』第一集第三集を購読して下さった橋本聖司さんが、友人の横原義人さんに『袋背負いの心』を贈呈したいとのことですから、表記住所の本人宛に送本して下さい」

とのことだったので、直ちに準備を整え、今回はクロネコヤマトのメール便でお送りする。

十月二十三日（日曜日、晴）

今朝は午前五時から、中天にひっそりと浮かぶ三日月を眺めながら、東町回りのコースを歩く。

朝食後すぐに、和歌山市の錦戸
恵美子さんから電話が入って『袋
背負いの心』二冊の注文を受け、
直ちに発送の準備を整え、月曜日
の郵送に備える、

今日は日曜日ということ、参
加者が多いパソコン囲碁の対局に
熱中。張り切った時は必ず成績が
悪くて、今日もその伝に洩れず、
散々な成績。

それはそれとして、昨今、特に
手筋を深く読む気力が失せて来た
のは何よりも辛い。



十月二十四日（月曜日、晴）

今朝は少し遅く、午前五時二十
分から西町回りのコースを歩いた
が、未だ夜明け前で、歩いている
人は三〜四人。でも、月曜日のせ
いだろう。何となく活気みたいな
ものを感じさせられる。

今日は小川英里さんからメール
便で送っていただいた『新釈古事
記伝』ホームページの原稿をプリ
ントして校正する。

内容は

一、『古事記』とは何か

二、阿部國治先生という人

三、『新釈古事記伝』出版のい

きさつ

四、購入申し込みについて
の四項目から成り立っていて、
僕はパソコンの素人だからよくわ
からないが、なかなか充実した内
容になっている。

校正ゲラは、明日、小川英里さ
ん宛にお送りする予定。

十月二十五日（火曜日、晴のち曇）

今朝の早朝散歩は出発時間を三
十分遅らせて、午前五時半から北
町↓東町のコースを歩く。今日一
日も好天なのか、東空が黄金色に
染められていた。

午前九時、一番の郵便で、昨夜、
電話注文を受けた神奈川県三浦市
の公賀貴愛さん宛に『袋背負い
の心』を、同時に、小川英里さん
宛にインターネット・ホームペー
ジの校正ゲラを、それぞれお送り
する。

また、京都市在住の知子から、
最近届いた郵貯銀行振替郵便入金
通知票の明細がメール便で送られ
てくる。

十月二十六日（水曜日、晴）

西町回りのコースを歩いたが、
今朝はいつもより数多くの散歩者
やジョギング者と出会う。

「今日は何かが起こりそうだ」

という予感が閃いて身構えていたが、真反対に何事も起こらず、平々凡々の一日となった。

ただ、歌人・斎藤茂吉の子で、『楡家の人々』や『ドクトルマンボウ航海記』等々の著者で有名だった北杜夫さんが亡くなられたというニュースが流れた。

同世代の人間として

「僕らの世代は終わったのだ」という感慨がひしひしと身にしみる。

十月二十七日（木曜日、晴）

今朝は体調が良かったので、東回りのコースを、何時もよりちよつと距離の長めのところを歩いたが、こんな日はたいへん気分が良い。ただし、気象予報によると、今秋一番の冷え込みだったみたいで、にもかかわらず、気分良く歩けたのは、神さまの計らいとしか言いようがない。

今日の《新釈古事記伝》は、東京都板橋区の松山志信さんから『袋背負いの心』二冊の電話注文。直ぐに荷造りして郵便局に持ち込んだが、送本料金は七百円で、いつもよりちよつと高かった。係員が細かく説明してくださったが、郵便局の規定料金というのは、荷姿如何でいろんな規定があるみ

いで、僕の頭では混乱してよく解らない。

十月二十八日（金曜日、晴）

午前五時から西町回りのコースを歩く。外気は肌寒い感じだが、散歩には快適。

今日は一日中書齋に座り込んで、当面している関心事項について、パソコンのインターネットを開いて索引。知っているつもりが、新しい事項を発見して、感動したり、驚いたりする。

また、メールコーナーは、関係

者との親書の遣り取りに利用して重宝しているが、折々にへんな情報が続いてくる。たいていは即座に屑籠行きにしている。

ただ、時にはちよつと引つかかるところがあつて開いたりするが、儲け話とか、異性関係とか、人間の欲望につけ込んだラチのないもので、たいていは再び屑籠行き。

それに、昨今は何かに集中している折、やたらと喉の渴きを覚え、以前はお茶で間に合わせていたが、最近、良し悪しは解らないが、牛乳に切り替えている。

ここで内緒話を書き留めれば、時には、妻の恵さんが春先に漬けたんだブランド梅酒をロックにして飲むこともあつて、現役で働いていた頃とは異なりへ毎日が日曜日への昨今は、未経験のいろんな知恵が働いて驚いている。

十月二十九日（土曜日、晴）

今朝は東町回りのコースを歩いたが、何故か理由は解らないけれど、子どもの頃に習った軍歌が口先から流れ出て、繰り返し歌っていた。昔々の体験だが、子どもの頃の記憶って、意外に鮮明に残っているものだ。

今日はかなりの時間をパソコン囲碁の対局に集中。勝敗は半々だったが、やっぱり、ときどき常識では考えられない乱れとか、錯覚と言うか、そういう着手が出て、それが全局を左右することが多い。

これは高齢者特有の現象かもしれないが、それを揺り戻すために貴重な時間を使っているのだから、現実に着手の乱れは、僕にとつてかなり深刻である。

十月三十日（日曜日、雨）

西町回りのコースを歩く予定で、

一旦マンションを出たが、俄かに

雨が降り出し、今日の早朝散歩は中止。営業中のファミリーマートで牛乳と食パンを買って帰る。

朝食後、パソコンのメールアドレスを開くと、栃木県那須塩原市の山中允さんからメールが届いていて、《新釈古事記伝》第二集

『蓋結』と第三集『少彦名』の注文が届いており、直ちに荷造りをして、郵便局は定休のため、クロネコヤマトの宅急便でお送りする。

余暇は、中野孝次著『本物の生き方』の読書と、パソコン囲碁の対局で過ごす。

第三章の《心と言う世界に生きる》の中に

「歳をとるということは、現在よりも過去に足をつ突つ込む度合いが増えていくということだ」

というのがあったが、ちよつと考えさせられる言葉だった。

十月三十一日（月曜日、晴）

今朝は昨日予定しながら降雨で歩くことができなかった西町回りのコースを歩く。昨日の休養で溜まっていた足の疲れが取れたのか、身体の調子が軽くて、軽快な早朝散歩だった。

さて、予てから《新釈古事記伝》の普及と活用にご尽力いただいている神奈川県在住の小川英里（おがわ・えり）さんから、『袋背負いの心』愛読者の感想として、次の内容のメールが届いた。

*

『古事記』というと、古い神話の本ですから、解説書とか文学書のようなものだろうと思いがちなんだところ、その双方を満たしたうえで、さらに奥深いへこころについて書かれた本でした。

この『袋背負いの心』では、大國主命が美しい心を体現されている二つの物語が取り上げられてい

て、初めに原文と訳文が掲載され、

次いで著者の阿部國治先生の解説によって、物語が読み解かれています。

物語の中で、大國主命は困難に直面されたとき、いささかの逡巡をすることもなく、為すべきことを自然体で為されていて、この点で、迷い、逡巡し、決意する中で自己を勝ち取っていく現代人の物語とは違います。

あくまでも無私で、為すべきこ

とを一心で為していく大國主命のお身体の内には、古い日本人が持っていたへこころが息づいているのでしよう。

これを言い換えればへ大和魂と言いうことができるかも知れませんが、『古事記』の大和魂は、現代におけるへ根性論のような狭隘な文脈ではない、より広い生き生きとした心であることを深く感

じました。

私はこの『袋背負いの心』を何度も読み返し、自分にとって袋とは何であるのか、またそれをいま背負っているだろうかと考えながら、少しずつ人生に響かせて変わって行きます。

※

僕は、この『袋背負いの心』の編纂者として、いま何を為すべきか。それは至極、簡單明瞭である。

した。

※

また、三年六ヶ月前には、前立腺肥大の疑いがあった、県立病院で診察を受けたところ、担当医に「初期前立腺癌の疑いがある」と

と診断され、直ちに入院して精密検査をうけたところ、摘出した六カ所の細胞のうち三カ所で病巣が確認されて、『前立腺癌』と宣告されました。

多病息災で生きる

新潟県 水戸部 幸一

皆さんご存じのように、健康について議論するとき『一病息災』という言葉が使われますが、私たちが夫婦の場合は『多病息災』で恙なく暮らしております。

私の場合、七年前に手術した半月板の後遺症で、腰部の脊椎管狭窄症を引き起こし、百五十メートルくらいしか歩けなくなり、団体旅行などには参加できなくなりました。



多病息災で生きる水戸部夫妻

早速、治療を受けることになって、現在に至っております。「病状が進展しないのは何故ですか」

と質問しましたら、担当医の先生は

「貴方のような病状の人はたくさんいらっしゃって、心配はありません。それに、癌には良性や悪性

の区別はなくて、全部が悪性です。

貴方の場合、早期治療で軽く済んでいますし、老人は子どもと違って病状の進行が遅いのです。

それに、癌と言うのは十年が一区切りで進展が見られますが、貴方の場合、当初と症状が同じです。から、治療は成功しており、天寿（九十歳）を全うできることは保証します。運が良ければ、根治する可能性も十分あります」

と説明されて、一安心いたしました。

※

それ以来、私は生き方を変えて、他人の迷惑を掛けない限り、やりたい事や好きなことをして余生を楽しむことができました。

具体的には、若い頃から唯一の趣味であった囲碁を楽しむことにしたところ、心も身体も軽くなって、歳を取るの

も忘れてしまい、気がついたら後期高齢者というか、八十五歳を超えておりました。

棋力は全盛時に較べると二目ほど弱くなりましたが、なにせ面白いので止められません。

要するに、歳を重ねるにつけ、心のゆとりや身につけた趣味が何よりの健康法だと確信しております。

※

今にして思い起こせば六十四年前、鯉淵学園の草創期に、日本がアメリカとの戦争に負けて、無気力のままゴロゴロしていた私に向かって

「娑婆に出た時、必ず役立つから」
こう言って、全く気のない私に對して、無理矢理に囲碁を教えてくださいました。

それが誰だったか、すっかり忘れていましたが、今にして思い出せば、確か神奈川県から来ていた山口次夫君で、今こんなに長生き

できるのは彼のお蔭で、深く感謝しております。

※

次は家庭内の話で恐縮ですが、妻も私と同じく多病息災です。

十五年ほど前に腰を痛め、二年ほど前に腰椎陥没症となり、補助具が無いと歩行が困難になりました。

また、五十代の頃は踊りが得意で、県民踊協会助教授として、将来を嘱望されておりましたが、病弱のため五年前に引退しました。

さらに、今年の三月二十八日夜、呼吸困難を訴え、救急車で県立病院に運ばれ、鬱性心不全症と診断され、即時入院しましたが、手当てが早かったお蔭で、危うく命を取り留めました。

その後へ要介護Ⅰから、今年の六月にはへ要介護Ⅱに認定されましたが、予想以上に回復が早く、家庭内では一人前のつもりで

動き回っています。

※

また、この五月には、次兄が九十

誇り高き人生に

岐阜県 筒井 泰夫

満蒙開拓を夢見て天地根源造りの講堂前広場に勢揃いした二十歳の若者も、八十路の半ばを越えて後期高齢者になりました。

当初、岐阜県からは七人が入所しましたが、今日では私と愛知県に住む古瀬敏雄君との二人になってしまいました。

私たちが社会人として生きたのは、戦後の厳しい時代でしたが、皆さん一生懸命に努力をして、それぞれに成功し、ちょいちょい顔を見せてくれました。私自身も運

歳で亡くなり、ここ一ヶ月の間に友人と暮友三人が相次いで亡くなって、家内中がテンヤワンヤです。

に恵まれて、どの職場でもへ長〳〵という名のつく椅子を与えられ、仕事は人々の世話役で、十二分に働かせてもらいました。

お蔭さまで叙勲の栄にも輝き、大臣からは数々の表彰を戴き、誇り高き人生になりました。

これは、かつて満蒙開拓指導員養成所時代に、鍛え込まれた根性と気力がそうさせてくれたものと、毎夕天空に向かって手を合わせております。

特にわれわれ若者を引き連れ、共に歩んでくれた諸先生の恩は忘れることはできません。

しかし、これから必ず逝くお浄土への道程は大変だと思えます。出来得れば、先だって逝った皆さんのように、笑顔で逝きたいもの

で、敬愛する別府信空君、檀上泰則君も既に逝ったとのこと、寂しい極みです。

しかし、この私は

「詩歌を創り、囲碁も打って、もう少し生きなさい」ということかも知れません。

書の道に励む

広島県 比本 竹一

私は役所生活を三十五年間いたしましたので、現在は年金生活をしております。

地元の盟友であった別府信空氏、檀上泰則氏が相次ぎ他界され、一人寂しく日々を送っております。

※

しかし、幸いにも、趣味として約三十年間、書の道に励んだこと

今でも年賀状は七百枚近く出しますが、その中で何時も囲碁のことを書いてくれる水戸部幸一君を思い出します。

美しく、

老いたきものよ

初時雨

が幸いして、現在、自宅で書道塾を開くに至っております。

また、非常勤ですけれども、四年前から地元小学校の習字指導に週一回通っております。

私たちが子供の頃は《読み・書き・算盤》の時代で、通塾・稽古に励んだのが良かったと思っています。

※

お蔭で、市主催の書道展等々では審査員を委嘱されましたし、役所では重宝がられて、数多くの業績を残すことができました。

とりわけ、市制七十周年

で『市民憲章』が設定され、役所前に石碑が建てられた折、その碑文を浄書いたしました。

※

また、尾道は寺の町としても有名で、古寺巡りのコースを設定しておりますが、その案内碑を浄書しておりますので、観光や仕事で尾道市にお越しの節は、どうかご覧ください。

※

また、国宝の浄土寺では毎月、写経行を実施しており、今日まで二十五年間続いております。私はそのお蔭で毎日元気で過ごすことができましたと信じております。



比本竹一君浄書の案内碑

健康に良いヤーコン芋

滋賀県 高田 利通

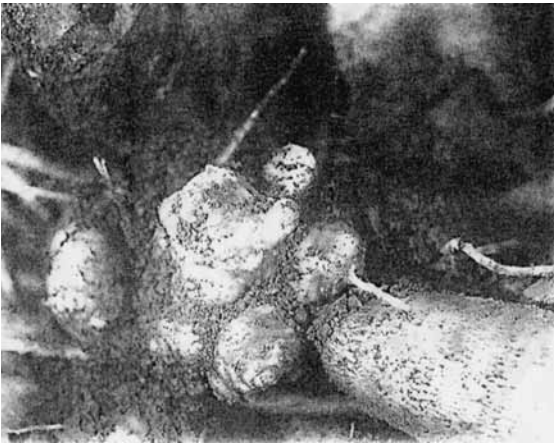
私は鯉淵学園に二十三歳まで残っていて、四月から指導農場に務めました。

そして、二十四歳の五月から滋賀県の農業改良普及員として、農家の技術指導に当たり、勤め始めて三十一年目の五十六歳の時に退職しました。

それから、地元農協の営農指導員として再就職、常勤としては併せて五十四年間務めたことになりました。

その後、農協の講師として、毎月五〜六回出勤して今日に至っております。

※



株元にできた種いも（4〜5月に芽が出る）

振り返ってみれば、昭和六十年頃、園芸店で

「健康に良い野菜」

というキャッチフレーズ売って

いた、一株が千九百円もするヤーコン苗を買い求めて植えておりました。

その後、平成十三年の秋、研修のために石川県へ出向いた折、金沢市近江町の市場へお土産を求めて行ったところ、ヤーコン芋を売っている店があったので、立ち寄って売れ行きを訊ねてみました。

すると、店の女主人が、仕入先である長野県で作成したへ奇跡の健康野菜〜と書いた宣伝ビラを取り出し見せてくれながら

「十日間に僅か三本しか売れない」と言っておりました。

※

このヤーコンの長所について、専門家である茨城大学教授の月橋輝男教授は

「ヤーコン芋には、フラクトオリゴ糖が多く含まれて、コレステロール量を減らし、赤ワインと同程度に含まれているポリフェノールが、

野菜の中でフラクトオリゴ糖含有量世界一
(オリゴ糖の含有量/可食部)

ヤーコン	ゴボウ	タマネギ	ニンニク	バナナ	ネギ
9.0	3.6	2.8	1.0	0.3	0.2

低カロリー
(カロリー/100g)

ヤーコン	サツマイモ	ジャガイモ	ゴボウ	里芋
54kcal	123	77	76	60

その酸化を防ぎます。加えて、食物繊維が腸内で吸着、排泄作用を促進します。
その結果、血管と腸内を大掃除して、万病の基を断つ理想の健康食品です」

とおっしゃっています。

※

そこで、私ที่บ้านにあったヤーコンを食べて、効果を体感したのは翌日でした。

要するに、ビフィズス菌が増殖して、腐敗菌が減少して便性が改善されて便秘がなくなり、肝臓の解毒に対する負担が軽減されま
すし、血糖値の上昇や、インスリン分泌がほとんど生じないので、血清脂質が改善される等の健康機能性のあることが証明されております。

※

私は五月の頃には、若葉を乾燥してお茶代りにしたり、生芋を佃煮にしたりして食事の時に少しずつ食べており、十一月には芋を薄く切つて酢につけて食



ヤーコン (食べるいも)

べております。

その他、食べ方にはいろいろあつて、サラダ、和え物、炒め物、煮物等々、いろんな食べ方が試されております。

※

このヤーコンの栽培法は、里芋の作り方と同じように、塊根から芽出しをして、四月から六月までに植え、七月に追肥と土寄せをしてやれば、十月下旬から収穫できます。

営農集団組合を

引つ張る

広島県 田宮 淳義

営農集団組合の法人化の二つです。

※

今年の一月にまた再選されたので、さらに三カ年頑張り続けなければならなくなりました。いずれにしても、営農集団組合のお蔭で、個々の農家は農業機械への投資が不要なくなつて、たいへん喜ばれています。

※

また、平成九年四月から、地域の自治振興区長を拝命し、十二年間務めました。

※

あるいは、庄原市の中国友好訪問団に加えていただき、四川省、北京、西安などを旅してきましたが、さらに、オーストラリア、ハワイ、韓国、カナダ等々にも旅してきました。

昭和五十九年三月、県職員を退職し、引き続き、広島県庄原土木事務所の嘱託員となり、県が国道の改良のために取得した用地所有権移転の事務を七年間いたしました。登記事務相続登記等、大変勉強になりました。

※

その間、地区内を縦貫する市道の拡幅改良（幅員六メートル、延長約二千メートル）を要望し、地元で用地を無償提供することによって、平成十二年から七年間かけて完成することができました。

※

自家では六十アールの水田経営を行っていますが、米価が安いために、昨年は米の所得はゼロ。辛うじて国の所得補償金が所得になりました。

地元では、昭和五十五年七月、大型機械の共同利用を主目的にした営農集団組合（三集落・五十一戸）を結成し、会計事務を担当しました。

そして、昭和六十二年度から、二代目の組合長に推挙され、その後

さらに平成十年度に、上水道組合を結成し、地域内二十六戸に給水管を設置。地域内の農道、約千八百メートルを舗装しました。

それでも地域社会を守るためには農業を続けなければならないわけです。

八期、二十四年間勤めております。

今後の課題は下水道の整備と、

ところが、昨今は足腰が衰えて、二百メートル以上歩くことができ

ませんが、ボケないように、頭の体操のために、囲碁教室に通っております。

※

終わりに『東日本大震災』に被災された方々に、心からお見舞いを申し上げます。

そろそろ限界

茨城県 菊田 広司

鯉淵を巣立つてから、はや六十年の星霜が過ぎ去りました。

その間、ただひたすらに突っ走り、無事に今日までやってこられた己の身体に感謝していますが、これは鯉淵で鍛えられた生活が糧になったのかも知れません。

しかし、八十路も半ばを超える、足腰に衰えが目立ち始め、

今年の春頃から杖に頼るようになって

「そろそろ限界だな」

と実感しております。

※

また、今年は大変地異というか、自然災害が多発して、その一つ『東日本大震災』に被災された地域の方々は、真にお気の毒としか言いようがありません。

百年に一回という大津波に家財もろともに押し流されて亡くなった方々。また、大津波の二次災害として起こった福島原子力発電所の溶融による放射能漏れで、生活不能な環境に追い込まれた方々。

本当にお気の毒としか言いようがありません。

私たちの地方（茨城県つくば市）でも、人身災害はありませんでしたが、屋根瓦や壁タイルの崩落、ブロック塀の崩壊等々の被害が生じて、職人さんの人手不足のため

に復旧に手が回らなくて、未だに三月十一日当時のままです。

※

これも自然災害ですが、この秋に日本列島を襲った台風十二号と台風十五号の記録的豪雨によって水禍に見舞われた紀伊半島の皆さんに、心からお見舞い申し上げます。

さらに振り返ってみると、十五年ほど前の平成七年に『神戸・淡路大震災』に遭遇され、ものの見事に復興を遂げられた神戸と淡路の皆さん方も大変だったと思います。

銀河系宇宙に存在する地球。その温帯地域に位置する日本列島。四季それぞれに自然の恩恵に浴しているわれわれ日本人です。

しかし、この大自然も、時には猛威をふるって大災害が生じます。その事実を心しながら、謙虚に生きていこうではありませんか。

受賞者決まる 流通4人を顕彰

(部門別・五十音順・受賞理由)

〈生産部門〉	
山口	範雄氏(代表取締役の取締役会長)
古川	紘一氏(代表取締役社長)
野崎	正平氏(代表取締役会長)
中原	靖生氏(代表取締役会長)
堤	殷氏(代表取締役社長)
小澤	二郎氏(代表取締役社長)
内田	淳氏(代表取締役社長)
伊藤	明氏(代表取締役会長)
浅田	剛夫氏(代表取締役社長)

- ▽あすき、船等産業振興
- ▽商品開発と食文化推進
- ▽地域産業等活性化貢献
- ▽フットウェア産業振興
- ▽商品開発、食料普及貢献
- ▽薬用全団等活性化貢献
- ▽業務用冷凍食品振興
- ▽学校給食等普及貢献
- ▽全国団体、地域活性化
- ▽こま産産近現代化
- ▽商品開発、地域活性化
- ▽薬用全団等推進貢献
- ▽即席麺等普及近代化
- ▽商品開発等文化海外
- ▽国際化推進文化海外
- ▽商品開発等文化普及
- ▽全国団体等産業振興
- ▽水産製品等普及貢献
- ▽和食文化等普及貢献
- ▽地域活性化団体推進
- ▽牛乳乳製品産振興
- ▽機能性素材活用貢献
- ▽全国団体等活性化
- ▽おしほ文化普及
- ▽全国団体等活性化



第44回食品産業功労賞選考委員会(東京・明治記念館で)

出身。65年中央大学経済学部卒。70年井村屋製菓(現井村屋グループ)入社。93年取締役、99年常務取締役、2001年専務取締役、03年代表取締役社長、10年10月井村屋グループ代表取締役社長、井村屋代表取締役選取開始、52年東京

日本食糧新聞社制定・農林水産省後援による第44回(平成23年度)食品産業功労賞の受賞者が決まった。生産部門9人、技術部門2人、流通部門4人、外食部門1人、当なしの計15人が7月1日、東京・信濃町の明治記念館で開催した選考委員会で満場一致で選ばれた。食品産業功労賞は昭和42(1967)年、わが国の食品産業界の発展と隆盛に大きく貢献し偉大な功績を残した功労者の

顕彰を目的に日本食糧新聞創刊25周年を記念して制定した。今回で生産部門261人、技術部門84人、流通部門143人、外食部門19人、特別賞8人の合計515人に贈られた。食品界の歴史を創り、支えてきた功績者をたたえ語り伝える顕彰事業として食品産業関連から高く評価されている。贈呈式・祝賀パーティーは、9月6日午後2時から明治記念館で開催される。(板倉千春)

9月6日贈呈式・祝賀会 功績たたえ

生産部門

浅田 剛夫氏(あきたたけお) 井村屋グループ代表取締役社長1942年7月1日生まれ。三重県出身。65年中央大学経済学部卒。70年井村屋製菓(現井村屋グループ)入社。93年取締役、99年常務取締役、2001年専務取締役、03年代表取締役社長、10年10月井村屋グループ代表取締役社長、井村屋代表取締役選取開始、52年東京

食糧新聞

The Japan Food Journal
日本食糧新聞社
東京都中央区八重洲1-9-5建物ビル
〒103-0028 電話03(3271)4815
FAX03(3271)4818

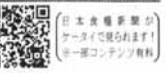
◀編集・広告・購読▶
東京都港区西新橋2-21-2
第一南校ビル(〒105-0003)
☎03(3432)5700(大代表)
編集 広告 FAX03(3432)4888
購読 FAX03(3578)9432
ホームページアドレス
http://www.nissyoku.co.jp/

購読料 半年32,424円
(前金制 税込)

Bull-Doog
ソースは食のエッセンス
ブルドックソース株式会社

食サーチ
http://www.nissyoku.co.jp/db

ドコモ、auソフトバンク
携帯公式サイト「食の情報源」



http://nissyoku.newsmart.jp

- ◀支社局▶
- 北海道 ☎011(613)3912 FAX 011(613)3913
 - 東北 ☎022(225)2721 FAX 022(265)0536
 - 北 東 ☎026(232)7456 FAX 026(232)8496
 - 静岡 ☎054(289)5802 FAX 054(289)5803
 - 中部 ☎052(571)7318 FAX 052(571)7319
 - 関西 ☎06(6314)4181 FAX 06(6367)8650
 - 中国 ☎082(223)2535 FAX 082(223)1866
 - 九州 ☎092(281)1790 FAX 092(281)2170

©日本食糧新聞社2011年

第44回

食品産業功労賞

生産9人・技術2人・

受賞者名



浅田 剛夫氏

伊藤 明氏

内田 淳氏

小澤 二郎氏

堤 殷氏

中原 靖生氏

野崎 正平氏

古川 紘一氏

山口 範雄氏

内藤 利邦氏

中嶋 洋平氏

安島 祐司氏

永津 邦彦氏

夏原 平和氏

山下 俊史氏

〔技術部門〕

内藤 利邦氏(相オリエンタル酵母工業 役)

中嶋 洋平氏(相日談 役油)

〔流通部門〕

安島 祐司氏(取マ締 役ル会 長ト)

永津 邦彦氏(取ト締 役力会 長)

夏原 平和氏(代平表 取締和役社 長堂)

山下 俊史氏(顧日本生活協同組合連合会 問)

- ▽パン酵母産業振興普及貢献
- ▽食品・バイオ技術開発貢献
- ▽業界・全国団体等活性化貢献
- ▽食用品油等産地振興貢献
- ▽独自技術価値創造社会貢献
- ▽業界・全国団体等活性化貢献
- ▽大震災地域生活者支援貢献
- ▽地域社会密着活動貢献
- ▽小売産業育成普及推進貢献
- ▽流通最前線仕組等推進貢献
- ▽中流通改革推進貢献
- ▽業界団体等産地振興貢献
- ▽総合小売産業振興貢献
- ▽流通・経営近代化推進貢献
- ▽地域社会生活者支援活動貢献
- ▽生協組織活性化育成推進貢献
- ▽生協団体等活性化推進貢献
- ▽大震災物流インフラ活用貢献



食品産業界に貢献

選考委員 満場一致で選出

都立区に伊藤製菓株式会社を設立し菓子類の製造・販売を開始、63年イトウ製菓株式会社に社名変更。終戦後、日本国民がどれだけ栄養を欲し、それによってどういって、年、グルーイ、これが、伊藤明会長が創業したイトウ製菓の原点だ。楽しい食事、甘くておいしい、食事を提供する事で心身ともに成長する、食育の精神を根底に持ちながら、「ミスターイトウ」ブランドのもと栄養価の高いクッキー、ビスケットを新鮮なまま消費者に届け、イトウ製菓を、日本有数のビスケット専業メーカーに育て上げた。96年から04年まで全国ビスケット協会会長・全国ビスケット公正取引協議会委員長を務め、業界の発展に貢献した。89年藍綬褒章受章、99年勲四等瑞宝章受章。

(2面) (111)

鯉淵一期会 庶務報告 (平成22年7月～23年11月)

平成22年7月23日

日光印刷へ発注の『ようせい』26号、1、000部、納品。直ちに発送作業に取り掛かる。

平成22年7月24日

『ようせい』26号、クロネコヤマトのメール便で会員宛に送本する。

平成22年7月24日

先に逝去された船越三郎君夫人、船越妙子さんから、満中陰の法要を営み、忌明になったとの通知を戴く。

法名 敬徳院賢哲三居士

平成22年7月30日

群馬県の小野保二君から22～23年度会費10、000円の振り込みあり。

平成22年7月30日

東京都在住の成毛弘子様から

「主人(成毛半平先生)は今年2月26日、92歳で他界いたしました」

との連絡があった。

また、岐阜県の筒井泰夫君から

「清水一夫君が今年の4月24日に死去したとのことです」

との連絡があった。

平成22年9月6日

福井県の藤井武夫君から下記の連絡があった。

① 広島県の塩田昂久君を物故者名簿に加えること。

② 平成18年に死亡

③ 住所 広島県佐伯郡佐伯町河津原33

④ 家族 妻 八重子

和歌山県の前田武史君は生存者名簿に記載されているが、2～3年前に死亡されている。

平成22年9月8日

茨城県筑西市の松村修司君から下記の連絡があった。

① 新盆の8月15日、行方市の宮本浩三君と一緒に

杉山正君のご霊前にお参りして、奥様と息子様にお会いして、御香料1万円をお供えました。

② なお、この件については、関東地方同窓会の集まりで報告します。

平成22年9月8日

松村修司君からの報告に基づいて、杉山正君に対するご香料の立て替え金1万円を、松村修司君に送金する。

平成22年10月20日

堀井美津さん（大木又二郎君の次女）から、大木又二郎君が6月19日に、胃がんのためご逝去との連絡があり、伊藤明会長との電話連絡により、ご香料として1万円を送金する。

平成22年10月30日

大関よし子さんから、大関實君が10月14日に、呼吸困難によりご逝去との連絡があり、伊藤明会長との電話連絡により、ご香料として1万円を送金する。

平成22年12月13日

比本竹一君から、檀上泰則君ご逝去との連絡があり、直ちに伊藤明会長に電話連絡、弔電とご香料の支出に関する決裁を受ける。

なお、ご香料は比本竹一君に立て替えて貰い、事務局から比本君宛に送金する。弔電は13日夜に打つ。（5、124円）喪主は御子息の檀上秀光さん。

平成23年1月30日

別府信空君宅から、本人ご遷化との訃報を受ける。

通夜 2月2日 午後6時より

葬儀 2月3日 午前11時より

直ちに、伊藤会長に電話報告。供花、ご香料1万円出費の裁可を受ける。

平成23年2月2日

通夜に栗山が出席。

平成23年2月3日

葬儀に栗山、比本、檀上泰則未亡人が出席。

平成23年2月28日

『ごくらんぼ狩り、奥の細道巡り』案内状を郵送。全部で34通。

平成23年3月19日

尾道市瀬戸田町、浄土宗・法然寺より、次のような満中陰法要の礼状が届く。

「過日、当山二十九世別府信空儀遷化に際しましては、ご懇篤なるご弔詞を賜りまして、ご芳志のほど有難く厚くお礼申しあげます。

お陰様をもちまして、三月十九日

勝蓮社一誉上人行阿修道信空大和尚

満中陰法要を滞りなく相営みました」

平成23年7月15日

山形県東根市の留場佐和さんから「和歌山県の早田仁君が、去る六月二十四日に死去された」との報告があり、直ちに伊藤明会長に報告し、ご香料支出の裁可を求めた。

鯉淵一期会 会計報告 (平成22年7月～23年11月)

年月日	摘 要	収 入	支 出	差引残高
22. 7. 1	前期からの繰越			508,038円
22. 7. 4	〃 井上正美	10,000円		518,038
22. 7. 23	『ようせい』26号印刷費		159,600円	
	〃 茶菓費		760	357,678
22. 7. 24	『ようせい』26号送本費		5,840	351,838
22. 7. 30	22～23年度会費 小野保二	10,000		361,838
22. 9. 9	杉山正君、ご香料及び送金料		10,500	351,338
22. 10. 20	大木又二郎君、ご香料及び送金料		10,500	340,838
22. 11. 1	大関實君、ご香料及び送金料		10,500	330,338
22. 12. 13	檀上泰則君、ご香料及び送金料と弔電		15,624	314,714
23. 2. 2	別府信空君、ご香料及び供花代金		20,500	294,214
23. 2. 25	ハガキ 40枚、80円切手 20枚		3,600	290,614
23. 2. 27	コピー代		800	
	〃 80円切手		2,720	287,094
23. 5. 9	22～23年度会費 田宮淳義	10,000		297,094
23. 7. 9	24～25年度会費 (伊藤明、飯岡幸男、宮本浩三、青木芳雄、大西正章、 松村修司、高田利通、藤井武夫、山田茂、梶並清一、 菊田広司、斎藤喜久治、三戸部幸一)	130,000		427,094
23. 7. 13	24～25年度会費 稲上 知	10,000		437,094
23. 7. 19	早田仁君、ご香料、送金料		10,580	426,514
23. 8. 14	『ようせい』原稿依頼のプリント代		350	426,164
23. 8. 15	原稿依頼状、切手代		2,640	423,524
23. 8. 19	24～25年度会費 比本竹一	10,000		433,524
23. 8. 29	24～25年度会費 菅沼憲三	10,000		
	同上 伊藤宝務	10,000		
	同上 小川英夫	10,000		463,524
23. 9. 8	同上 長谷千歳	10,000		
	〃 同上 古瀬敏男	10,000		
	〃 同上 井上正美	10,000		493,524
23. 9. 12日	同上 筒井泰夫	10,000		503,524

あとがき

この『二十七号』は九月初めに
出す予定でしたが、お互いに歳を
とったせいも、何もかもがスロー
モーションになって、こんなに遅
れてしまいました。

編集子として、会員の皆様に心
からお詫びいたします。

*

さて、今年には自然災害、それも
『東日本大震災』を始め激甚災害
の多かった年で、その極めつけは、
想定外の巨大津波による福島原子
力発電所の「溶融」という名の放
射能漏れによる汚染でした。

「原子力発電は安全です」

という政府の安全神話に嵌めら
れ、地元自治体への巨額補助金に
乗せられたこともあったが、一旦
生じた事故に対して、日本の科学
技術がこれほど脆弱だったとは思

いもしませんでした。

いや、日本の科学技術の水準は、
「脆弱」と言うよりも「無知蒙昧」
と言ったほうが正確かも知れま
せん。

*

さて、巻末の会員名簿で見られ
るように、ここ二年間、数多くの
同窓生が鬼籍に入って、とうとう
百名の大病を切りました。

同窓会の都度、亡くなった会員
の靈魂を弔って

「もしも死んだら、わしが弔って
やるから安心せい」

と言ってくれた別府信空和尚も、
今年の四月に、あの世へ旅立ちま
したし

「米寿のお祝いは盛大にやろうぜ」

と言っていた早田仁君も、今年
六月に鬼籍に入りました。

「白虎隊 吟ずる友よ誰よりも

意気軒昂にエールを送る」

と詠んでくれた檀上泰則君も、

今年の三月に鬼籍に入りました。

*

さて、今年の鯉淵一期会は、先
般、山形県東根市の留場佐和さん
の格別のご尽力によって、本文の
報告記述に見られる通り、盛大に
行われました、

ご主人の留場知弥君が平成八年
に逝ってから既に十五年、奥様の
佐和さんの頑張りに心から感謝。

(栗山 要)

『ようせい』第二十七号

平成二十三年十二月発行

『鯉淵一期会』事務局

〒651-2242

神戸市西区井吹台東町

1-3-2-1603

TEL 078-9997-0181

会 員 名 簿

県名	氏名	郵便番号	住 所	電 話	備 考
青 森	鈴木 良一	038-0031	青森市里見1-4-12	0177-81-1055	会社員(現役)
山 形	留場 佐和	999-3722	東根市泉郷中2404	02374-4-2918	サクランボ留場農園
宮 城	斎藤喜久治 (山家)	989-1257	柴田郡大河原町新寺字洞秀山177	0224-52-6035	果樹園経営
〃	北野 哲男 (高橋)	989-6226	古川市新田字上宿32-4	0229-26-3522	
福 島	山下 謙二	961-8071	西白河郡西郷村大字真船字浦日向77-1	0248-25-1707	
〃	戸田 俊一	961-8071	西白河郡西郷村大字真船	0248-25-2904	
茨 城	飯岡 幸男	304-0028	下妻市大字下木戸395-1	0296-44-5566	
〃	菊田 広司 (大川)	300-2622	つくば市大字要9の1	0298-64-0097	農業
〃	宮本 浩三 (奈良崎)	311-1704	行方市山田1048	0291-35-0738	農業
〃	松村 修司	308-0051	筑西市大字岡芹957-10	0296-22-3962	
〃	沼崎 亨	300-1506	取手市上萱場215	0297-82-4352	
〃	宇留野五郎 (皆川)	319-2133	常陸大宮市大字小野600-2	02955-2-3722	農業
〃	中里 栄	309-1344	西茨城郡岩瀬町南飯田898-1	02967-5-3410	病気療養中
栃 木	梶並 清一	321-0143	宇都宮市南高砂町11-27	0286-53-0081 (代)	建設会社々長 自宅0286-53-9121
〃	西田 泰人	329-2728	那須塩原市西栄町3-19	0287-36-0426	病気療養中
群 馬	小野 保二	370-0344	太田市新田早川228	0276-56-6557	
埼 玉	小川 英夫 (田島)	362-0001	上尾市大字上673-1	0487-72-2013	
千 葉	菅沼 憲三	277-0005	柏市柏556	0471-67-2277	
東 京	青木 芳雄	115-0042	北区赤羽北2-3-12	03-3907-2342	鉄工業
〃	伊藤 明	179-0085	練馬区早宮4-31-5	03-3992-8937	TEL 03-5814-4695 イトウ製菓(株)会長
神奈川	山口 次夫	249-0003	逗子市池子2-2-38	0468-73-5030	
新 潟	水戸部幸一	957-0018	新発田市緑町2丁目18-18	0254-24-8119	
福 井	藤井 武夫 (稲田)	913-0002	坂井市三国町加戸94-5	0776-81-7452	獣医科病院長

県名	氏名	郵便番号	住所	電話	備考
長野	志津 正人	381-2700	更級郡大岡村古谷場	02626-3-8484	酪農
〃	中曽根利雄	389-0824	千曲市大字力石344	02688-2-5050	会社々長
静岡	久世 正雄 (松浦)	436-0086	掛川市葛ヶ丘2丁目8-61	0537-22-0188	
〃	松永彦三郎	420-0882	静岡市葵区安東3丁目10-44	054-245-0486	
〃	日向 道治	416-0948	富士市森島123-3	0545-64-1879	
愛知	山田 茂	465-0948	名古屋市名東区一社1丁目116	052-701-5515 6039	新聞販売業
〃	古瀬 敏雄	486-0093	春日井市六軒屋町字中山1312	0568-82-7763	大東京火災春日井支店
〃	長谷 千歳	444-0875	岡崎市竜美西2丁目5-3	0564-52-5791	県嘱託
岐阜	筒井 泰夫	501-4201	郡上郡八幡町有穂321	05756-2-2238	
三重	瀬古 重信 (福島)	519-1426	阿山郡伊賀町西の沢	0595-45-3787	農業
〃	本庄 英一	510-0944	四日市市笹川9丁目 県住P3-304	0593-22-3824	雇用振興協会 管理主事
滋賀	高田 利通 (清水)	520-2342	野洲市野洲59-2	0775-87-0939	守山市農業協同組合嘱託
京都	稲上 知 (塩見)	620-0022	福知山市下柳町31	0773-22-7192	
〃	伊藤 宝務	617-0825	長岡京市一文橋2-19-14	075-952-0539	
〃	田中ふき子	623-0362	綾部市物部町岸田20	0773-49-0032	
和歌山	小橋伝次郎	646-0056	田辺市芳養町1247	0739-22-3480	鉄工所社長
兵庫	栗山 要	651-2242	神戸市西区井吹台東町 1-3-2-1603	078-997-0181	
広島	田宮 淳義 (菅田)	727-0203	庄原市川北町2326-1	0824-72-4706	
〃	林 訓三	729-5812	庄原市小用町465	0824-73-6343	農業
〃	比本 竹一	722-0212	尾道市美ノ郷町本郷1316	0848-48-0273	
徳島	渡辺 幸男	771-1202	板野郡藍住町奥野字和田62-10	0886-92-7351	病気療養中
香川	開出 基	769-2705	大川郡白鳥町白鳥1111	0879-25-4584	農業
愛媛	大西 正章	791-3142	伊予郡松前町上高柳122	0899-84-5634	農業
大分	佐藤 義和	871-0039	中津市天神町2丁目64	0079-22-6455	会社役員
〃	井上 正美 (高内)	871-0202	下毛郡本耶馬溪町大字曾木	0979-52-3419	

物故会員名簿

県名	氏名	連絡者名	住所	備考
青森	西谷 尚	妻 西谷 陽	〒037-0200 北津軽郡金木町西谷町	昭和56. 3. 10歿
岩手	佐々木喜一郎		紫波郡都南村乙部30地割56 TEL 0196-96-8490	戦死
〃	漆真下喜代美		〒028-5102 葛巻町江刈第10地割	戦死
山形	高橋 直		〒995- ? 村山市袖崎町 5 十沢	戦死
〃	青木 悟	弟 青木 長七	〒995- ? 村山市袖崎町上生田	昭和53. 9. 20歿
〃	留場 知弥	妻 留場 佐和	〒999-3722 東根市泉郷甲2404	平成 8. 9. 4 歿
〃	横尾 彦也	妻 横尾 好子	〒990-2483 山形市上町 3 丁目18-21	平成12. 2. 10歿
〃	富樫 良二		〒999-7621 東田川郡藤島町長沼字上新田	平成12. 4. 19歿
〃	塩野鉄太郎		〒994-0026 天童市東本町 1 丁目 3 - 12	平成15. 8. 31歿
〃	大木又二郎		〒990-0812 山形市千歳 1 丁目19-32	
宮城	高橋 剛郎		〒981-4253 加美郡中新田町大門	
〃	菅原 寅吉		〒981-0303 桃生郡鳴瀬町小野字中央20-2	平成18. 7. 6 歿
〃	高平 幹男		黒川郡富谷町西成田地蔵堂	平成14. 不詳
茨城	東 胤正	妻 東 智恵	〒314-0037 鹿嶋市鹿島町神野 2 - 4 - 8	昭和56. 1. 20歿
〃	板場 泰司		〒308-0021 下館市本城町甲276	
〃	板橋平次郎	妻 板橋 竹子	〒314-0043 鹿嶋市田谷532- 4	平成 9. 11. 25歿
〃	宮本 精次	甥 宮本 定	〒300-0511 稲敷市高田1379	平成16. 12. 13歿
〃	岩田 信吾	甥 岩田 一	〒301-0838 竜ヶ崎市愛戸町90番地 TEL 0297-62-2411	平成20. 5. 2 歿
〃	中野 正 (杉山)		〒309-1115 筑西市蓮沼1569- 3	
栃木	小島 三郎	妻 小島 カツ	〒326-0801 足利市有楽町834	
〃	落合 茂	兄 落合利一郎	〒307-0158 小山市大字梁1468	昭和25. 4. 11歿
〃	渡辺 一郎		〒322-0256 鹿沼市南大芦字下沢	昭和24. 3. 16歿
〃	湯沢 隆夫	甥 湯沢 拓	〒322-0305 上都賀郡栗野町大字口栗野1062	平成18. 4. 23歿
〃	細川 貫一		〒329-1324 塩谷郡氏家町大字草川60-18	平成17. 12. 26歿
〃	谷澤 恒夫		〒329-1104 河内郡河内町大字下岡本3738- 7 TEL 0286-73-1886	平成20. 2. 14歿
〃	仁木 稠		〒329-1333 塩谷郡氏家町大字長久保874	

県名	氏名	連絡者名	住所	備考
群馬	飯塚 八平	妻 飯塚 けい	〒377-0801 吾妻郡吾妻町大字原町842-8	昭和51. 11. 25歿
〃	山崎 五郎	妻 山崎 まつ	〒377-0424 吾妻郡中之条町大字中之条1798	昭和53. 3. 18歿
〃	飯塚虎之助	妻 飯塚 雅子	〒377-0033 渋川市並木町813-7	昭和63. 10. 9歿
千葉	福浦 憲治		〒270-0113 流山市駒木台209	
埼玉	高橋 義人	妻 高橋喜美子	〒350-1132 川越市岸町513	
〃	矢田部喜二三 (実)		〒338-0802 さいたま市木崎3-5-7	平成21. 1. 8歿
東京	神藤 英男	兄 神藤 晨	〒203-0053 東久留米市本町3-11	戦死
〃	武智 敬		(本籍) 愛媛県伊予郡原町麻生甲2830	
〃	宮奈 利喜		〒187-0013 小平市回田町218	平成14. 4. 2歿
石川	松本 吉平		〒929-2233 七尾市中島町字笠師う138	
富山	西能 忠二	妻 西能リツ子	〒939-1534 東砺波郡福野町広安228	昭和53. 10. 9歿
〃	高田 亨		〒930-0087 富山市安野屋町2-2-13	平成7. 2. 8歿
〃	岩永 秀博	妻 岩永 英子	〒931-8328 富山市犬島新町1-1-31	平成14. 10. 22歿
山梨	内田 操		(本籍) 西山梨郡千代田村平瀬914	
長野	川久保源一郎		〒389-2322 飯山市瑞穂	昭和57. 4. 16歿
〃	大谷 八郎	妻 大谷 和子	〒389-0811 埴科郡戸倉町須坂48	平成6. 1. 18歿
〃	小松 秀美	妻 小松八重子	〒390-1701 南安曇郡梓川村倭3439	平成13. 3. 11歿
〃	武田 照美		〒389-2233 飯山市大字野坂田437	
静岡	渡辺 好男	妻 城下 久子	〒431-4111 磐田郡佐久間町相月12-2-1	昭和38. 11. 17歿
〃	太田 正治		〒437-0006 袋井市大谷	
〃	遠藤 弥作		藤枝市	昭和18. 11. 26歿
〃	山下 勇		〒420-0911 静岡市瀬名997-4	平成12. 5. 4歿
〃	飯田 俊男		〒411-0904 駿東郡清水町柿田4329	平成19. 1. 20歿
〃	大関 實		〒426-0015 藤枝市五十海1丁目10番10号	
愛知	牧田 豊水		〒441-8149 豊橋市中野町字大原20	昭和19. 2. 19歿
岐阜	蓑島利喜郎		〒500-? 岐阜市金島5-13	平成6. 9. 2歿
〃	富岡 毅		(本籍) 郡上郡明方村小川	
〃	牧村 保雄		〒501-0619 揖斐郡揖斐川町三輪2744-9-1	平成18. 3. 11歿
〃	清水 一夫		〒501-0634 揖斐郡揖斐川町上野991	平成22. 4. 24歿

県名	氏名	連絡者名	住所	備考
三重	鈴木 精治	妻 鈴木 勝代	〒514-0072 津市大字小舟629-5	平成2. 12. 2歿
〃	世古口悦造 (小林)	妻 世古口綾子	〒515-0302 多気郡明和町大字大淀甲839	平成6. 1. 3歿
京都	田中 嘉二	妻 田中ふき子	〒623-0362 綾部市物部町岸田20	平成8. 9. 27歿
〃	赤木 正	妻 赤木登代子	〒615-8026 京都市西京区御陵北山町32-11	平成4. 11. 歿
奈良	松村新太郎		〒630-8032 奈良市五条町1056-80 TEL 0742-46-0281	昭和52. 10. 21歿
和歌山	副井 稔久	妻 副井 恒子	〒649-2103 西牟婁郡上富田町生馬1653	平成4. 11. 11歿
〃	堤 将		〒641-0021 和歌山市和歌浦東3-2-23	平成11. 3. 20歿
〃	小橋伝太郎	姪 島影 幸子	〒646-0056 田辺市芳養町1247	平成15. 9. 7歿
〃	前田 武史		〒649-7133 伊都郡かつらぎ町三谷1527	
〃	早田 仁	妻 早田 妙子	〒649-1528 日高郡印南町西の地772-1	
岡山	植月 義一	妻 植月 郁子	〒709-4335 勝田郡勝央町植月中409	平成9. 8. 13歿
〃	鳥越 力		〒707-0062 英田郡美作町湯郷766	平成13. 11. 4歿
〃	小林 英男	妻 小林 貞子	〒659-0088 芦屋市業平町5-13-203	平成15. 10. 30歿
〃	船越 三郎	妻 船越 妙子	〒709-0827 赤磐市山陽5-5-4	平成22. 6. 4歿
広島	中川 弘文		佐伯郡小内村麦谷	
〃	竹口 等		〒731-3701 山県郡筒賀村上筒賀	
〃	表 銀次郎		〒729-0112 福山市神村町3433-1	昭和62. 12. 4歿
〃	市田 千秋		〒731-3701 山県郡筒賀村上筒賀66	平成6. 3. 8歿
〃	深田 保	妻 深田 禎子	〒722-0336 御調郡御調町字江田442	平成3. 6. 16歿
〃	田辺 耕治	妻 田辺カオル	〒731-0113 広島市安佐南区依南町西原2-30-19	平成4. 6. 19歿
〃	石井 徹治	妻 石井 君枝	〒739-0024 東広島市西条町御藪宇7106	平成15. 9. 22歿
〃	木倉 康夫	妻 木倉美千枝	〒727-0021 庄原市三田市町甲2106	平成13. 12. 11歿
〃	見正 仁士	妻 見正 房江	〒731-0231 広島市安佐北区亀山2丁目 4番30-4号	平成21. 12. 22歿
〃	中山 由夫 (藤川)	甥 中山 百輔	〒729-6214 三次市高杉町1787	平成20. 12. 22歿
〃	檀上 泰則	妻 檀上テル子	〒720-0543 福山市藤江町6105	
〃	別府 信空 (修)	妻 別府 弘子	〒722-2411 尾道市瀬戸町瀬戸田44 法然寺	
〃	岡田 達朗		〒722-0062 尾道市向東町11771-8	
山口	弘中 泰彦		〒742-1511 熊毛郡田布施町下田布施134	連絡先不明
鳥取	尾崎 勲夫		〒680- ? 鳥取市神戸町上砂見8	昭和61. 2. 27歿

県名	氏名	連絡者名	住所	備考
愛媛	越智茂登一		〒799-1526 今治市孫兵衛甲206	平成12. 4. 7 歿
香川	小浜 碩郎		〒769-2515 大川郡大内町町田390-30	平成12. 7. 歿
徳島	坂本 太郎	妻 坂本畝津子	〒771-6324 那賀郡上那賀町御所谷字横畑	平成14. 12. 30 歿
福岡	二木 千年		〒828- ? 豊前市大字660-1	平成5. 5. 17 歿
大分	岳藤 有義		〒879-0471 宇佐市四日市町字四日市1150	
〃	西園大次郎			
〃	由見 三二	妻 由見 貞子	〒879-4732 玖珠郡玖珠町大字山浦大原野	平成2. 5. 23 歿
熊本	宮脇 淳	妻 宮脇 ツネ	〒273-0033 船橋市本郷町505-5-1-508	昭和62. 11. 25 歿
〃	大平 守男	歿 大平なぎさ	〒868-0086 人吉市下原田町荒毛154-1	平成17. 4. 13 歿
熊本	石田 方男	妻 石田 順子	〒861-4106 熊本市南高江町6丁目24-11	平成21. 6. 29 歿
鹿児島	中迎 義雄	妻 中迎 和子	〒895-0065 川内市宮内町4216	昭和56. 10. 21 歿
宮崎	羽深 一忠	妻 羽深 静子	〒881-0106 西都市大字岩爪1459-22	平成10. 12. 歿

顧 問 名 簿

県名	氏名	郵便番号	住所	電話	備考
東京	玉本 正治	178-0064	練馬区南大泉 3-31-1	03-3925-5531	
〃	石田隆太郎	151-0051	渋谷区千駄ヶ谷 4-1-6	03-3401-3759	

物 故 顧 問 名 簿

氏		名	
加藤 完治	村井 達三	本多 義典	藤沢 勇二
水野 信	春日井 信一郎	小林 一郎	小島 米三郎
阿部 国治	山崎 匡輔	中村 浩	(加島)
沼地 豊三郎	芝田 清吾	小林 正明	吉田 秀雄
遠藤 重利	梅地 慎三	多田 元一	阿部 すす
黒田 孝郎	柏俣 藤吉	三瓶 茂	小田 秀夫
内藤 大吉	伊藤 義輝	外尾 武夫	北嶋 剛
三好 久人	板垣 節雄	白田 喜代志	森田 美比
阿部 信乃	安達 義正	藤懸 了雄	成毛 半平

平成23年 7月 1日現在 35名